南箕輪村むらづくり委員会（第 4 回）会議録

日時　令和 8 年 11 月 10 日（火）午後 7 時～8 時 30 分

場所　南箕輪村役場 講堂

出席者

会長　足立 芳夫
職務代理　松田 聖一
委員　唐澤 豊、征矢 康徳、志野 英男、山﨑 力、沖村 明美、原 千香子、美濃部 浩明、
三木 敦朗、出羽澤 平治、伊原 正喜、岩本 彩也佳、小林 さゆり、千 菊夫、
富岡 順子、林 佑樹、穂高 貴志
専門委員　征矢 俊樹、平嶋 真、中村 文隆、牧野 浩之、大槻 亮
欠席者　堀 幸一、原田 顕範、池上 雅子、太田 和也、児玉 夏絵、新村 典久、吉川 つづり

1. 開会

松田職務代理

2. 会長あいさつ

足立会長より、仕事後の出席への謝辞が述べられた。11 月に入り季節の進みを感じるとともに、本日は創生総合戦略検証の第 2 回目として、各係より報告を受けながら審議を進めたい旨の挨拶があった。

3. 協議事項

（1）南箕輪村創生総合戦略の検証②

【協議前の確認事項】

協議事項に入る前に、委員より発言の申し出があり、会長がこれを受けた。

委員の発言（要旨）

以下の 2 点について事務局への確認・要望が述べられた。

① 検証作業の位置づけについて

これまで 3 回の会議を通じて第 5 次総合計画（創生総合戦略）の検証作業を進めてきたが、すでに第 6 次総合計画が策定・配布されており、現在行っている第 5 次計画の検証が行政としてどのように位置づけられているのかについて確認したい旨の発言があった。具体的には、既に完成した計画に対する形式的な確認にとどまるのか、あるいは今後展開される第 6 次計画の具体的事業（次期実施計画や単年度の政策運営）に対して、今回の議論や検証結果がどのように反映・活用される仕組みになっているのかについて、事務局の見解を求めた。

② 議事録の作成・配布について

これまでの会議の議事録が手元に届いておらず、これまでの議論の積み重ねや到達点が見えにくい状況にあるとして、今後は会合ごとに議事録を作成・配布するよう要望した。

事務局の説明（要旨）

① 検証作業の位置づけについて

現在、第 6 次総合計画が令和 8 年度よりスタートしており、第 5 次計画の最終年度（令和 7 年度）の実績を委員に示し、目標値に対する結果を確認していただく場が本委員会である旨の説明があった。

第 6 次計画の策定にあたっては、前期のむらづくり委員会において第 5 次計画期間中（3～4 年目）の現状を踏まえながら議論が行われており、計画策定には約 2 年を要したとの説明があった。計画期間が終了してからでないと次期計画をスタートできないという制約上、5 年間の計画期間の中間時点で現状を確認しながら次期計画を策定する形となっているとの説明があった。

今回の検証結果については、計画書の文言そのものを変更することはできないが、各担当者が委員の意見を記録し、次年度以降の事業内容の改善に活用していくとの説明があった。また、委員会としての意見は答申書に要約して村長に提出しており、各担当がそれをもとに事業の参考・改善に役立てているとの説明があった。

② 議事録の作成・配布について

事務局より、議事録のウェブサイトへの掲載が遅れていることへの謝罪とともに、早急に対応する旨の説明があった。

【各係からの検証報告】

事務局より、本日の資料として「第 4 回会議用」資料と「会議資料２」を合わせて参照するよう案内があった。「第 4 回会議用」資料には本日審議する項目の達成値・継続の別・第 6 次計画への記載状況が整理されており、事業内容の詳細は「会議資料２」を参照するよう説明があった。

① 危機管理課 防災係（KPI 番号 32・33）

KPI 番号	項目	基準値（R1）	目標値（R7）	達成値（R7）	評価
32	防災に関する出前講座開催数	年間 10 回	年間 12 回	年間 13 回	達成
33	防災士養成人数	25 人	32 人	34 人	達成

説明概要

KPI32（出前講座）については、コロナ禍の時期は数回程度にとどまっていたが、年々増加傾向にある。令和 7 年度からは各エリアの地区を巡回するとともに、希望・要望のある地区や団体へ出向く形で実施している。

KPI33（防災士）については、34 名が村の防災士会に登録されており、目標を達成している。一方、防災士として地域を支えてきた方々が徐々に勇退される状況が生じており、今後の担い手確保が課題となっている旨の説明があった。なお、各地区に 2 人以上の防災士を配置することが目標設定の根拠となっているとの説明があった。

委員からの質疑・意見

委員より、信州大学においても学生を中心に防災士の取得に取り組んでいるが、そうした学生が村の防災士の人数にカウントされているかとの質問があった。

これに対し担当課より、信州大学の学生は現在村の防災士会には登録されていないとの回答があった。あわせて、学生と村の防災士会をつなぐパイプを構築できれば、子どもたちへの防災学習・講座など新たな取り組みが可能になるとして、委員に連携の橋渡しを依頼した。

また、防災士資格の取得機会については、主に松本大学のオープン講座（年 2 回）で行われているが、前年度は開催できなかったこと、また募集開始直後に定員が埋まるほど人気が高い状況であるとの説明があった。

② 産業課 農政係（KPI 番号 5・13）

KPI番号	項目	基準値（R1）	目標値（R7）	達成値（R7）	評価
5	中核的経営体が地域の農地に占める面積のシェア	52.7%	65%	54.9%	未達成
13	市民農園面積	0.3ha	0.3ha	0.3ha	達成

説明概要

KPI5（農地集積シェア）については、中核的経営体（認定農業者・認定新規就農者・集落営農組織等）が村の農地全体に占める面積の割合を示す指標である。農業委員会・JA・県等の関係機関と連携して担い手への農地集積を図ってきたが、目標値には至らなかった。

KPI13（市民農園面積）については、村が運営する「ふれあい農園」の面積が目標値どおり 0.3ha を維持しており、達成となった。食育・地産地消の推進を目的とした農園として運営されている旨の説明があった。

委員からの質疑・意見

委員より、新規就農者が施設型（花き等）の農業に転換した場合、経営体数はあっても農地面積は必要としないため、面積シェアが上がりにくくなるのではないかとの見解が示され、面積シェアを上げるためには土地利用型の農業を増やす必要があるのかとの質問があった。

これに対し担当者より、以下の説明があった。

- 全国平均は約 62%であり、政府の食料・農業・農村基本計画では 2030 年までに 70%を目標としている。
- 集積を進める目的は、耕作放棄地の減少と農業生産コストの低減にある。
- ただし、シェアが高いことが必ずしも農業として良い状態とは言えない場合もある（農地の飛び地、農業者の極端な減少等）。
- 村の実情としては、認定農業者でないが一定規模以上の経営を行っている方もおり、また耕作放棄地は全国・他地域と比較して少ない状況にある。
- 令和 6 年度から導入された「地域計画」（農地の将来の担い手を地図上で協議・決定する国の仕組み）を通じて、結果的に集積が進む仕組みとなっている。
- KPI5 単独での評価は難しく、KPI6（認定農業者数）・KPI7（認定新規就農者数）と合わせて総合的に評価することが望ましい。

委員より、土地利用型と施設農業型では評価軸が異なることから、KPI5・6・7 を合わせて全体を俯瞰できる資料を作成してほしいとの意見が述べられた。

担当者より、今後の資料作成の参考とする旨の回答があった。

③ 産業課 商工係（KPI 番号 2・3）

KPI 番号	項目	基準値（R1）	目標値（R7）	達成値（R7）	評価
2	企業振興補助金交付事業所数	16 社	18 社	12 社	未達成
3	村・県制度資金申請件数	67 件	80 件	109 件	達成

説明概要

KPI2（企業振興補助金）については、新規・既存の商工業者等が固定資産（土地・建物・償却資産等）を基準額以上取得した場合に固定資産税相当額を村が補助する制度である。経済状況や企業の設備更新時期によって申請件数が変動するため、目標値には至らなかった。今後も県・商工会・金融機関等と連携し、補助制度の周知を図っていくとの説明があった。

KPI3（制度資金）については、村内事業者が経営安定に必要な資金を円滑に調達できるよう、金融機関を通じて有利な条件で融資を受けられる制度である。村の制度資金 72 件・県の制度資金 37 件の合計 109 件となり、目標を上回った。物価高騰等の影響を受ける事業者の状況を踏まえ、引き続き利用しやすい制度となるよう精査していくとの説明があった。

委員からの質疑・意見は特になかった。

④ 観光森林課 大芝サービス係（KPI 番号 16・18・19）

KPI 番号	項目	基準値（R1）	目標値（R7）	達成値（R7）	評価
16	観光 PR イベント開催回数（年間）	24 回	24 回	39 回	達成
18	経ヶ岳・権兵衛峠を活用したイベントにおける登山者数（年間）	1,600 人	2,000 人	1,089 人	未達成

KPI番号	項目	基準値（R1）	目標値（R7）	達成値（R7）	評価
19	「ふるさと名物」商品化件数	8件	14件	12件	未達成

説明概要

KPI16（観光PRイベント）については、村外（東京・名古屋等）でのPRイベント6件、大芝高原でのマルシェ・ブラメシフェス等15件、村内スタンプラリー等村内飲食店・観光業者への集客イベント12件、大芝高原まつり等他課主催イベントでのPR6件の計39件を実施し、目標を大幅に上回った。

KPI18（経ヶ岳・権兵衛峠登山者数）については、主にトレイルランの大会（バーティカルリミット）、公民館登山、中学校経ヶ岳登山等の参加者数を集計した結果、目標の2,000人に対し1,089人にとどまった。一方、KDDIの人流データによると権兵衛ルートを通過した登山者数は令和6・7年度ともに約4,200人程度で推移しており、イベント参加者数とは別に来村者は増加傾向にあるとの説明があった。令和8年度はトレイルランのコース・名称変更等により、前年比約100名の参加者増加が見られているとの説明もあった。

KPI19（ふるさと名物商品化件数）については、観光協会の認定推奨品の数を指標としており、令和7年度は4件の申請・認定があったが目標値には至らなかった。申請者から「認定されてもどれだけPRしてもらえるのか」との疑問が生じていることが課題として認識されており、認定商品の活用（信州松本トライデンツの試合へのMVP商品提供等）を通じて申請メリットの周知を図っているとの説明があった。また、大芝高原ブランドの商品開発として、アカマツを使ったドリンクの開発・販売や、南箕輪小学校とのコラボによるわさび商品の開発も進めているとの説明があった。

委員からの質疑・意見

委員より、KPI18に関連し、登山者の増加に伴う登山道の整備・環境保全（ササユリの保護、駐車場不足等）の課題と今後の対応について質問があった。

担当者より、以下の説明があった。

- 登山道の整備は経ヶ岳友の会への委託事業として予算化して実施している。
- ササユリの保護については経ヶ岳友の会がロープ等で管理しており、荒廃は最小限にとどまっている。
- トレイルランの大会においても、参加者への保護植物に関するルール説明を徹底している。
- 駐車場不足については、ハード整備は将来の登山者数の見通しが不透明なため困難であり、

長野県の宿泊税交付金を活用した二次交通（大芝高原・塩尻方面からの夏季限定バス等）の検討を行っているが、具体的な事業化には至っていないとの説明があった。また、電柱の支線移転等により駐車スペースを確保する対応を行っているとの説明もあった。

委員より、登山推進にあたってのクマ対策について質問があった。

担当者より、登山道入口や大芝高原内にクマ出没注意の看板を設置しているほか、登山道トイレにも注意喚起の掲示を行っており、鈴・ラジオの携行を引き続き呼びかけていくとの説明があった。

委員より、KPI19 に関連し、村内の学校（上農高校等）との商品開発コラボが少ないと感じるとして、学校との連携強化を求める意見が述べられた。担当者より、積極的に取り組んでいきたい旨の回答があった。

委員より、国道 361 号線（権兵衛峠）のゲート閉鎖区間について、自転車ツーリングコースとしての活用可能性について質問があった。担当者より、現在は落石等の危険があるためゲートを設置して通行を制限しているが、自主的に自転車で通行している方がいることも確認されているとして、建設水道課と協議しながら検討する旨の回答があった。

⑤ 教育委員会事務局 学校教育係（KPI 番号 22・25・26・35）

KPI 番号	項目	基準値（R1）	目標値（R7）	達成値（R7）	評価
22	登下校見守りボランティア登録者数	169 人	200 人	120 人	未達成
25	体験学習実施時間数	39.8 時間	40 時間	109.3 時間	達成
26	キャリア教育・郷土教育実施時間数	21.0 時間	20 時間	110 時間	達成
35	学校教育での自然学習時間	22.5 時間	15 時間	221.6 時間	達成

説明概要

KPI22（見守りボランティア）については、登録者の高齢化・活動離脱者の増加、日中就労者が多く、新たな担い手確保が困難な状況が未達成の主な原因である。地区 PTA による見守り・声かけ運動や街頭安全指導等により補完されているが、特定の方への負担固定化が生じないよう、見守

り体制の維持を引き続き課題として取り組んでいくとの説明があった。また、通学路交通安全プログラムに基づき危険箇所等の対策を年間を通じて実施しているとの説明があった。

KPI25（体験学習）については、警察署・消防署・浄化水場の見学、臨海学習、修学旅行、中学生議会等の各種体験活動を実施した。

KPI26（キャリア教育・郷土教育）については、小学校での農業体験・農業高校との交流・水路の学習・キャリアパスポート作成、中学校での職場体験・高校との交流等を実施した。保育園から大学院まで揃う村の強みを生かした交流を展開しており、キャリア教育コーディネーターによる専門的サポート体制も整えているとの説明があった。

KPI35（自然学習）については、小学校でのリンゴ・米作り体験・遠足、中学校での経ヶ岳登山等を通じて自然に触れ合う学びを実施した。各校の取り組みを支える補助金（特色ある学校づくり補助金・中学校総合学習補助金等）を交付しているとの説明があった。

KPI25・26・35 について実績値が目標値を大幅に上回った点については、当初の目標値設定時の計上方法と、学校現場での計上方法との間に乖離があったことが主な原因であるとの説明があった。具体的には、単体の活動時間だけでなく、生活科・理科・社会等の授業内で行われた体験・自然学習に関連する時間も含めて計上したことによるものとの説明があった。

委員からの質疑・意見

委員より、今年度の 5 年生で田植え体験が実施されなかったことへの疑問・要望が述べられた。

担当者より、各学校が学習内容を自主的に決定する仕組みとなっているが、田植え体験を楽しみにしているという声を受け、地域との連携による復活等について学校と引き続き話し合っていきたいとの回答があった。

委員より、見守りボランティアの減少を補う観点から、通学路の危険箇所への防犯カメラ設置について意見が述べられた。

担当者より、防犯カメラの設置は地区要望として上げていただき、地区・PTA を通じた要望という形が適切であるとの説明があった。また、不審者情報等が発生した際には警察と連携し、教育委員会によるパトロール車での巡回・音声による注意喚起等も実施しているとの説明があった。

委員より、KPI25・26・35 の成果指標（村民アンケートにおける「小中学校の学習活動の充実と成果」への満足割合：平成 25 年度 16.7%→令和元年度 21.8%）について、上昇傾向にあるものの全体として堅調な推移にとどまっている印象を受けるとして、要因分析と第 6 次総合計画への反映について見解を求めた。

担当者より、体験学習・キャリア教育等に参加する子どもたちの様子からは充実感が感じられるが、それを指標で表すことは難しいとの説明があった。また、教育長交代を機に「開かれた教育」

を推進しており、年 2 回の教育懇話会を通じて村民と教育の方向性を話し合う場を設けているとの説明があった。第 6 次総合計画では「学校に行くことを楽しいと思える児童生徒の割合」を成果指標として設定しており、学習活動の充実と連動するものとして位置づけているとの説明があった。

あわせて委員より、英検受験料補助に加え、漢字検定・数学検定等の主要 3 検定にも補助対象とすることで、子どもたちの学習意欲向上につながるのではないかとの提案があった。担当者より、持ち帰って検討したい旨の回答があった。なお、主要 3 検定への補助制度が導入されている他市町村の情報提供が委員よりあった。

⑥ 教育委員会事務局 社会教育係（KPI 番号 27・28）

KPI 番号	項目	基準値（R1）	目標値（R7）	達成値（R7）	評価
27	わくわくクラブ会員数	1,511 人	1,600 人	1,196 人	未達成
28	スポーツ施設利用者数（年間）	130,065 人	130,000 人	103,978 人	未達成

説明概要

KPI27（わくわくクラブ会員数）については、令和 7 年度から休日の地域クラブ活動が開始されたことに伴い、地域クラブに移行しなかった陸上クラブ・科学技術クラブの生徒がわくわくクラブに入会しなくなったことが減少の主な原因である。令和 6 年度（1,253 人）から令和 7 年度（1,196 人）にかけてさらに減少している。今後は地域クラブでの体験会の実施や、令和 8 年 10 月 17 日に大芝高原で開催した「まっくんスポーツフェス」でのウォークラリー形式の体験会等を通じて会員増加を図っていくとの説明があった。

KPI28（スポーツ施設利用者数）については、わくわくクラブの活動回数の減少と、大芝高原内の屋外施設の利用者数減少（天候の影響を受けやすい）が主な要因として挙げられた。令和 7 年 10 月から予約システムを導入したことにより、体育館等の空き時間への利用者が増加する傾向が見られているとの説明があった。

委員からの質疑・意見

委員より、テニスコートの平日夜間貸し出しがわくわくクラブ団体のみに限定されており、一般利用者が借りられない状況が生じているとして、地域移行に伴うテニスコート難民への対応を含め、柔軟な対応を求める要望が述べられた。

担当者より、指定管理者（南箕輪村開発公社等）と協議のうえ、予約システムも活用しながら利用しやすい形に改善を検討していきたいとの回答があった。

（2）その他

委員より、大芝高原（中央園路や公園の中）について、日没後に照明がなく暗い状態となっており、散歩や運動で利用する村民が不安を感じているとして、照明（街灯等）の設置を要望する発言があった。不審者の出没情報やクマの問題もあることから、安全管理の観点からも対応を求めた。

事務局より、ご意見を承った旨の回答があり、費用を要する整備となるため、観光森林課と連携しながら対応を検討していきたいとの説明があった。

4. その他

事務局より、次回むらづくり委員会の日程が報告された。

- **次回（第 5 回）日時：令和 8 年 12 月 15 日（火）午後 7 時～**

5. 閉会

松田職務代理